

2月16日
(火)

おめでとうございます

—長寿者褒賞(100歳)—

まつい しょういち
松井照一さん(大和町島)が100歳のお誕生日を迎えるにあたり、日置市長がご自宅を訪れました。日置市長がお祝い状や花束を贈呈し「100歳おめでとうございます」と述べると、松井さんは「ありがとうございます」と笑顔で喜ばれました。いつまでもお元気で。



▲笑顔でお話をされる松井さん

2月16日
(火)

農林水産大臣表彰を受賞

—農業委員会・岩田会長—



▲受賞の報告をされた岩田農業委員会会長

いわた ひでお
郡上市農業委員会並びに岩田英男農業者代表(同委員会会長)が農林水産大臣表彰の受賞報告を日置市長にされました。岩田さんは、昭和44年から農業委員となり、通算31年以上の永きにわたり在職され、特に平成20年からは、会長として委員会の円滑な運営、発展に尽力されています。

2月19日
(金)

市内6カ所で充電可能に

—「道の駅」に電気自動車の充電設備—

今回、経済産業省の補助事業により市内の「道の駅」5カ所に電気自動車の充電設備を設置しました。これまでに設置されている道の駅「明宝」と合わせると6カ所の「道の駅」で利用が可能となりました。今後、利便性の向上による電気自動車の普及とともに道の駅に立ち寄られるお客さんの増加が期待されます。



▲充電操作をする道の駅連絡協議会の水野会長

3月2日
(水)

白山登拝路コース認定

—新日本歩く道紀行100選「歴史の道」—



▲認定されたコースを説明する猪島部会長(中央)

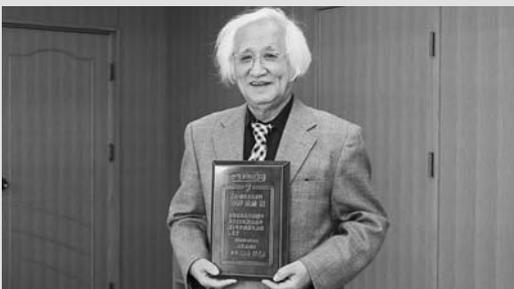
新日本歩く道紀行100選の「歴史の道」部門(日本ウォーキング協会や健康・体力づくり事業財団等が主催)において「白鳥町住民協働まちづくり会議わくわくウォーキングコースづくり部会」が申請したコース「白山登拝路 長滝から阿弥陀ヶ滝へ」の認定を日置市長へ報告されました。

3月2日
(水)

岐阜新聞大賞を受賞

—水野政雄さん(八幡町)—

みずの まさお
第66回岐阜新聞大賞(文化・教育文化部門)を受賞した画家・造形作家の水野政雄さんが喜びの報告を日置市長にされました。水野さんは、郡上おどりの観光ポスターの原画や郡上かるたの原画制作などを通じて、郷土の歴史や文化の継承に貢献されるとともに、絵画教室や企画展などを通じて創作の楽しさを伝えてこられました。



▲喜びの報告をされた水野さん

3月8日
(火)

優良公民館表彰を受賞

—西和良公民館—



▲青木教育長に受賞の報告をされた曾我館長

文部科学省が毎年、優良な公民館を表彰する「第68回優良公民館表彰(文部科学大臣表彰)」において、八幡地域の西和良公民館が今回受賞し、曾我敬次館長が青木教育長に喜びの報告をされました。青木教育長は「これからも公民館活動を頑張ってほしい」と述べられました。

3月10日
(木)

地元の木材を有効活用します

—明宝デイサービスセンターに木質ボイラーを導入—

明宝デイサービスセンターにおいて、冷暖房設備と給湯設備（ボイラー）の改修工事が完了し、運用を開始しました。これまでのボイラーは灯油を燃料としていましたが、新しい設備は木質ボイラーを採用し、清流の国ぎふ森林・環境基金事業により岐阜県の補助を受けて整備しました。



◀木質ボイラーを設置した明宝デイサービスセンター



◀設置した木質ボイラーに薪を入れる様子

このことにより、明宝デイサービスセンターでは、薪を使ってお風呂の湯を沸かすこととなります。薪の生産と納品は「明宝山里研究会」が、日々のボイラーの管理は「NPO法人ふる里めいほう」が行うなど地域ぐるみで木材の有効活用を進めていきます。

3月13日
(日)

地域のサルを追い払う！

—第2回モンキードッグ現地訓練—

野生のサル等による被害から大切な農作物を守り、追い払うよう指導を受けた犬「モンキードッグ」の現地訓練が奥長良ウインドパーク（大和町）で開催されました。この日は、長野県安曇野市でモンキードッグ育成を行う磯本隆裕先生いそもと たかひろの指導の下、6頭の犬が訓練を受けました。



◀磯本先生（先頭）の訓練を受ける様子

3月15日
(火)

みんなで考える地域づくり

—郡上学総合講座を開催—



◀本年度の取り組み発表を行う市職員の様子

「郡上学総合講座 第2回郡上学の集い」が市総合文化センターで開催されました。今回は、今年度の「郡上学」全体の取り組みの振り返りと、「学び」を「地域づくり」につなげていくという視点での講演会が行われ、参加した約60人のみなさんは、熱心に講演を聞いていました。

3月14日
(月)

迫力あるプロの技を披露

—市内の小中学生が全日本スノーボード選手権大会を観戦—

第34回JSBA全日本スノーボード選手権大会が3月8日から18日まで高鷲町の3スキー場で行われました。14日には北濃小、牛道小、高鷲小、高鷲北小、高鷲中学校の5校、計約250人が高鷲スノーパークを訪れ、迫力あるプロの技を目の前で観戦しました。観戦中はパイプから目の前に飛び出してくる選手に対して大きな声援や拍手



◀大会の説明を聞く小学生



◀目前で大会を見る児童ら

写真提供：日本スノーボード協会

で応援。出場した選手からは「多くの方々に観戦してもらいモチベーションが上がった」「歓声が多いほど良いパフォーマンスに繋がる」との声がありました。また、大会期間中には、3スキー場で1日ずつ高鷲観光協会が「おもてなし」として豚汁、ホットミルクのサービスを行うなど、大会を盛り上げました。